

徳島大学病院がん診療連携センターフォーラム

小児・若年医療の今

「徳島大学病院がん診療連携センターフォーラム」が3月16日、徳島市の徳島大学病院日連ホールで開かれた。知って納得!! 徳島県のがん治療・小児・AYAから最新のゲノム医療まで」をテーマに徳島大学の専門医ら7人が講演し、小児とAYA(思春期・若年成人世代)のがんや最新のゲノム医療、院内のがん相談支援センターの活用方法を解説した。講演の要旨を紹介する。

開会あいさつ
宮本氏



国の新たながん政策では、小児とAYA世代の対策やゲノム医療の推進に重点が置かれている。今回のフォーラムではこの二つの話題を中心に、日頃から現場で患者と接している徳島大学病院の医師ら7人の専門家が最新の状況を分かりやすく紹介してくれる。講演内容を参考にし、知識を増やし、今後の健康づくりに役立ててもらいたい。疑問があれば徳島大学病院のがん相談支援センターや、他病院の類似施設を気軽に利用してほしい。

フォーラム出席者

- 宮本 弘志氏 (徳島大学病院がん診療連携センター長)
- 渡邊 浩良氏 (徳島大学病院小児科医師)
- 土岐 俊一氏 (徳島大学病院整形外科医師)
- 藤野 泰輝氏 (徳島大学病院消化器内科医師)
- 阿部 彰子氏 (徳島大学病院産婦人科医師)
- 井上 寛章氏 (徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科医師)
- 近藤 英司氏 (徳島大学病院耳鼻咽喉科医師)
- 川下 美紀氏 (徳島大学病院緩和ケアセンターコーディネーター)

小児科における小児・AYAがん診療



小児がんはまれな疾患で、かつては不治の病とされてきたが、治療成績は年々向上し、現在では70〜80%の患者が長く生存できるようになった。抗がん剤がよく効く疾患が多く、成人と比べて副作用が軽い。そのため、化学療法を強化できることがその理由だ。

化学療法に手術などの外科的治療や放射線照射を組み合わせた集学的治療でも治療が難しい疾患には、大量化学療法や造血幹細胞移植を追加する。

治療後は晩期合併症(晩期障害)に注意が必要だ。治療に使った化学療法や放射線治療が原因で成長・発達への影響や内分泌(ホルモン)の影響、中枢神経の異常、臓器への影響、二次がんの発生などの可能性がある。

今後必要なのは、診療の中心となる小児がん拠点病院の

渡邊氏 化学療法で生存率向上

整備や専門医の育成に加え、化学療法の強化でも治療が難しい再発・難治性小児がんに対する新しい治療法の開発、晩期合併症への対策だ。

徳島大学病院小児科が17年間で治療したAYA世代のがん患者34人の調査では、骨肉腫などの骨軟部腫瘍や脳腫瘍が多い▽退院後の復学・復職が難しい▽卵子・精子の保存例がまだ少ない▽転移・再発例が半数を占めている。

AYA世代のがん医療の課題には、標準治療が定まっていなかったり、(復学や復職、生殖・妊娠に必要な機能の温存に関する情報提供や支援体制が十分でない)などがあ

がん遺伝子の関係はわたくしはがん家系?



がんができる時、がんに関わる遺伝子の変化が細胞で起こっている。変化(複製のエラー)が起る原因は紫外線や放射線、たばこ、生活習慣、加齢などによるダメージだ。ヒトの細胞には修復機能があるためエラーの多くは修復されるが、修復されない変化が積み重なるとがんになる。

ヒトの体は37兆個の細胞からできており、それら一つ一つの細胞の中には2本で1ペアの染色体が23種類含まれている。がんができる時にはその2本とも遺伝子の変化が起こることが多い。

阿部氏 複数発症「遺伝性」疑い

遺伝性腫瘍の人の細胞は、生まれた時から既に1本の遺伝子が変化した状態にあり、対になるもう1本に変化が起きるとがん化することから一般の人よりもがんになりやすい。しかし、遺伝性腫瘍でも変化が起こらず遺伝子にならな場合もある。

がんゲノム 乳がん



進行・再発乳がんの遺伝子パネル検査について、日本乳癌学会の診療ガイドラインでも、現時点ではパネル検査の適切な実施時期や事後改善への効果は不明だが、有用性が明らかになるだろうと期待されている。

これまでに進められた検査では患者の約半数に遺伝子の変異が見つかっている。そのうち1割で、乳がん治療には保険がきかないが効果が期待できる薬を予測することができた。

井上氏 パネル検査 有用性期待

もう一つの問題は、再発した病巣から組織を採取するのが難しいことだ。一部がんで再発過程で性質が変化するという特徴があるため、再発部位から採取して検査するのが望ましいが、部位によっては困難な場合がある。

頭頸部がんのゲノム医療について



頭頸部がんは、口の中やのど、鼻、耳の中、甲状腺、唾液腺などの頭や首に発生するがんの総称で、全がんの5%程度を占める比較的珍しい疾患だ。

がんは遺伝子のDNA配列が変化することで発症する。がんに関係するのは、がん遺伝子とがん抑制遺伝子の二つで、これらにドライバー変異と呼ばれる変化が複数の遺伝子に起きることが細胞がん化する。

近藤氏 遺伝子変異解明し治療

頭頸部がんでも、他のがんで既に知られているような、初回から検査することの有用性を裏付ける臨床研究を進めることで、最適な治療法の選択につながる。

AYAがん



AYA世代特有の問題として、成熟の過渡期にあり、治療方針などの決定に親が関与して複雑性が生じることが挙げられる。また、就学、就職、恋愛、結婚、出産といった人生の転換期を迎える。

希少がんの患者は専門医のいる施設を見つけるのが難しく、かつ、的確な医療情報を入手しにくかったりする場合もある。多様ながんが含まれるため、複数の診療科や職種の医療者がチーム体制を築くことが重要だ。

この年代にはさまざまなライフイベントがあり、患者が自分らしく過ごすためのサポートが必要だ。2018年に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画で、ゲノム医療と共にAYA世代のがん対策の推進が取り上げられて注目を集めた。

土岐氏 診療にチーム体制重要

徳島県内でも徳島大学病院が中心となって昨年2月、サルコイム(肉腫)カンファレンスという会議を設置して、2、3カ月一回開いて患者の診断や治療方針を話し合っており、これまでに延べ99人が参加した。

AYA世代のがん患者特有の不安や悩みを解消するため、患者が組織を立ち上げた。交流会を開いたりしているほか、会員制交流サイト(SNS)やフリーペーパーで体験談を発信しているの

で、ぜひ利用してほしい。

消化器がんにおけるがんゲノム医療



がんの発生や進行には遺伝子異常が関係していることが近年の研究で分かっており、特定のがん遺伝子に対応した分子標的薬と呼ばれる薬を使った治療が年々増えている。

例えば、がん遺伝子の一つであるHER2遺伝子に対応した薬は胃がんや乳がんでは既に保険承認されているが、大腸がんなどにも効いたというデータがあり、臨床試験で有効性が確認できれば保険承認されるだろう。

このように、がん治療はがんができた臓器に対応した抗がん剤を使う時代から、異常がある遺伝子に合わせて治療薬を選ぶ時代が変わりつつある。

藤野氏 分子標的薬投与が増加

種類に加えて生殖細胞系列の異常を調べるのが保険診療として行える。

この検査を187症例に行ったところ、58.2%が異常が見つかり、治療できる病院内での距離や全身状態などの問題をクリアした13.4%の患者に薬を投与できた。10人中3人程度は生まれつき生殖細胞系列の異常が見つかった。

ただ、検査では約半数の人が異常が見つからない場合があり、見つかったも対応する薬がないなどの理由で10人に1人程度しか治療できていないという課題もある。生まれつき異常が見つかる場合もあり、患者だけでなく家族にも関わることで、事前に十分な説明を行っている。

当院のがんゲノム医療相談窓口とコーディネーターの役割



がん細胞のゲノムを調べて遺伝子の変化を見つけ、診断・治療するのががんゲノム医療だ。このために行われるのががん遺伝子パネル検査で、徳島県内ではがんゲノム医療連携病院の徳島大学病院だけが受けられる。

保険診療で検査を受けられるのは、標準治療がない発生場所不明のがんや希少がんの患者のほか、標準治療を終えたが終了見込みの固形がんの患者だ。入院中は検査できないため、外来通院中ということも条件となる。

検査で異常が見つかったも対応する薬が国内で承認されていない、投与基準に該当しなかったりすることもある。臨床試験で投与を受けられる場合もあるが、条件に合わない場合は参加できない。変化が見つけられない、解析がうまくい

川下氏 保険診療の適用に条件

遺伝性腫瘍が見つかり、がんになりやすい体質だと分かる可能性もある。必ず発症するとは限らないが、これを知りたいかどうかは希望を尊重している。

徳島大学病院で保険診療として受けられる検査には2種類あり、それぞれ対象となる遺伝子の数や必要な検体が異なっている。費用は2回に分けて請求され、3割負担の場合は検査提出時に2万4千円、結果説明時に16万8千円となる。

自由診療でも検体や対象遺伝子数、費用が異なる2種類の検査がある。こちらには受ける際の条件はない。病院1階のがん相談支援センターでは、専門研修を受けたがんゲノム医療コーディネーターやがん専門相談員による無料相談を行っている。時間は月曜から金曜までの午前8時から午後5時までで、面談や電話で対応する。がんゲノム医療の詳しい情報は病院ホームページから見

曜日	時間	放送日	チャンネル
木	13:00~15:00	25日	ケーブルテレビ徳島111ch(11ボタン)
	20:00~22:00		
土	15:00~17:00	27日	
日	11:00~13:00	21日・28日	

(注)特別番組や編成の都合により、やむを得ず変更や放送できない場合があります

主催 徳島大学病院がん診療連携センター
共催 徳島がん対策センター 徳島新聞社

【紙面編集】齋藤邦彦